

対義語を使ったイ形容詞の新しい指導方法

小村 親英

鹿浦 佳子

要旨

日本語初級の教科書には、イ形容詞の否定形活用「～くない」が導入されているものが多い。しかし、日本語母語話者の実際の会話ではその形容詞の否定形活用を使った文はあまり使われず、代わりに対義語が使われるという調査結果がある¹。関西外国語大学留学生を対象にした調査でも対義語を使う頻度の方が高かった。本稿では、この調査結果に留意し、対義語を使った新しいイ形容詞の指導方法を提案する。

【キーワード】 文型積み上げ式・文型至上主義・対義語・母語の転移・日本語教
文法

1. はじめに

1980年代に始まるオーディオ・リンガルからコミュニカティブ・アプローチへの移行は日本語教育にも影響を与えた。しかし、日本語初級の教科書では文型積み上げ式を中心にしたまま、文法形式の定着を図ることが重要視されている。言い換えれば、文法形式の定着ばかりが先行し、自分の言いたいことを言葉にして伝えるという言語が持つ基本理念を考えたコミュニケーションのために必要な学習が後回しにされている(品田 2012)。特に初級の文法では、導入すべき文法項目を順序良く網羅的に教えるべきであるとする教師側の固定観念(「文型至上主義」)があり、

その文法知識を駆使してコミュニケーションを図る努力が軽視されている（嶋田 2012）。

例えば、イ形容詞の否定形活用の指導であるが、初級文法項目の一つとして「～くない（普通体）」を指導する。「おもしろい」というイ形容詞を使って形容詞述語文、「このマンガはおもしろいです」を作ると、その反対の意味を伝えるために、その形容詞述語文の否定形「このマンガはおもしろくないです」と否定形活用の文法形式を教える。ただ、このイ形容詞述語文の否定形活用形式は、日本語母語話者の間でも普通の会話ではあまり使われないという報告がある（小林 2010, 33-36）。つまり、イ形容詞の否定形活用を使って反対の意味を伝えるのではなく、その形容詞の反対の意味を持つ対義語を使って打消しの意味を伝えようとする（「このマンガはつまらないです」）。

そこで、本大学の留学生にも同じようにイ形容詞の打ち消しの方法を調査してみると、やはり、否定形の活用形式「～くない」を使わずに、ペアになっている対義語を使う学生のほうが多いという調査結果が出た。複雑なイ形容詞の否定活用形を駆使して打消しの文を作るよりは、対義語を使って反対の意味を伝える文を作るほうを好む。本発表では、否定活用形「～くない」の定着ばかりに重きを置く指導方法の代わりに、対義語を含んだ形容詞述語文を使ってコミュニケーションを図る発話練習の指導を提案する。否定活用形が使う頻度が低いからと言って、学習しないということではなく、初級文法では対義語を使った形容詞述語文を教え、否定形活用は中級文法以上に回せばいいという考えである²。初級の文法項目を順序良くすべて教えるという教師側の「こだわり」から脱却して、学習者が実際に考えていることをコミュニケーションのために発話できるような指導内容に変える必要がある。学習者が考えていることが実現されるように誘導するのが教師の仕事だからである（細川 2004）。

2. イ形容詞の否定形活用か対義語使用かの調査

2.1 調査目的

形容詞述語文（例えば、「メアリーさんはいそがしい」）をその反対の意味を伝え

る形容詞述語文を口頭で作成する。その時、形容詞の否定形活用「～くない」を用いるのか、それとも、その形容詞のペアになっている反対の意味を持つ対義語を使うのかを調査する。

2.2 調査対象

本大学に 2014 年度秋学期在籍した会話レベル 2、レベル 3 の留学生、合わせて 60 人。レベル 2 は一年から一年半の日本語学習経験を持ち、レベル 3 では一年半から二年の学習歴を持つ学生である。

2.3 調査方法

両レベルとも秋学期期末試験の口頭試験の一部として行われ、試験官(担当教師)が留学生に形容詞述語文の打ち消し方法を発話させ、それを録音、記録して分析した。受験者(留学生)が形容詞述語文を作成するのに、キューとなる形容詞の絵カード(英語訳添え)(例えば“busy”)を見せ、受験者がその絵カードを見て形容詞述語文(「メアリーさんはいそがしいです」)を発話する。その後、すぐに反対の意味を伝える絵カード(英語訳添え)(“not busy”)を見せて、反対の意味を持つ形容詞述語文を発話させる。その時、形容詞の否定形活用「～くないです」を用いて「メアリーさんはいそがしくないです」と答える学生と、その形容詞の意味の反対となるペアのナ形容詞「ひまな」を使って「メアリーさんはひまです」を使う受験者の数を比較した。絵カードは受験者に見せるだけで、「～くない」を使って否定文を作りなさいという口頭での指導は前もって行わない。ただ、絵カードを用い、そこに示されている“not busy”を見て、打消しの文を作る方法を記録した。実際に用いた形容詞は「いそがしい(イ形容詞)」「おもしろい(イ形容詞)」「すきな(ナ形容詞)」の3種類であった。

受験者に絵カードを見せながら、試験官が主語の部分を出し、残りの述部の部分を受験者が発話して文を完成させるという記録方法をとった。例えば、「メアリーさんは・・・」と試験官が始めれば、受験者は「いそがしいです」と答えるものであった。試験官が使った三つの形容詞述語文は「メアリーさんは(いそがしい

です)」「この番組は (おもしろいです)」「みちこさんは (テニスが好きです)」であった。

2.4 調査結果 (Appendix 参照)

レベル 2 では受験者 36 人中 23 人、レベル 3 では 24 人中 17 人が否定形活用「～くない」を用いずにペアの対義語を使って発話した結果が出た。レベル 3 では「みちこさんはテストが好きじゃないです」よりは「みちこさんはテストが嫌いです」と発話する受験者が多かった。言い換えれば、絵カード “be fond of/like” を見た後の “be not fond of/not like” の応答は、その “not” に対応する打消しの形を日本語訳する否定形活用を使うよりは、“dislike” という逆の状態を描写する対義語を使う受験者の方が多かった。受験者にとっての “not” の解釈は「打消しの形」ではなく「逆の状態」の描写であった。他の形容詞の「みちこさんはテストが好きじゃないです」(「テニスが好き」の後に嫌いな項目としてテストの絵カードを示し)よりは「みちこさんはテストが嫌いです」がより頻繁に発話された。特にレベル 3 では 6 割以上の受験者が対義語の「嫌い」を使用、レベル 2 でも「嫌い」を使用受験者は半数近くにのぼった。

また、形容詞の否定形活用を用いて返答した学生は三つの形容詞全てに否定形活用を用いる傾向があり、レベル 3 では、3 分の 1 の受験者が「嫌い」と「ひま」の両方とも対義語を使用していた。

否定形を用いた受験者の中には、___で示したように「すきくない」「たのしいじゃない」「いそがしいじゃない」など「イ形容詞」と「ナ形容詞」を混同して間違った否定形を使用するものもいた。レベル 3 においても、まだ活用を間違える受験者があり、初級レベルでの否定形の作成は時間をかけて練習している割には、定着していないということがわかった。

3. イ形容詞の否定形活用を用いずに対義語を用いる理由の仮説

3.1 発話のために時間をかけない経済性

非母語話者は、一般に、複雑な活用や表現が使いにくい時、その代用として便利

なマーカーを使うという（迫田 2012）。この形容詞否定形の調査に関しても、複雑な否定形活用「～くない」を駆使して反対の意味を伝えるよりは、ペアである対義語を使うほうが非母語話者にとって易しくなるのは明らかである。特に、口頭で「話す」反応が求められる場合、「書く」反応よりは時間をかけずにすばやく答える必要があり、時間をかけて推敲することができないという理由が考えられる。つまり、すばやい発話が求められた場合、複雑な活用や表現を使わずに、簡潔で便利な対義語を使う。

3.2 母語の転移をつかう経済性

非母語話者は、第二言語習得の過程で母語や既習言語を使う傾向がある（迫田 2012）。I 形容詞述語文の場合、その文尾に複雑な否定形活用を使って反対の意味を伝えようとする精神作用を経て発話に至るよりは、既習言語ですでに習得している反対の意味を持つ対義語を使うほうが自然な精神作用になると考えられる。言い換えれば、非母語話者は労力を使わないで効率的にものごとを達成しようとする経済的なルールを用い、既存知識を利用してより単純な論理で処理できる方法をとる（小林 2005）。

3.3 形容詞が持つ本来的な言葉の特徴

動詞の否定形活用と違い、形容詞は、感情・形状など、ある状態の特徴を描写するための言葉であるため、その感情・形状を否定する場合、対義語を使って反対の状態を描写することが可能になる。動詞と形容詞が持つ特徴の違いを注視すれば、「食べる」という動詞を否定形に変換する場合、動詞は動作・作用・存在という事物の動きを表すものであるため、その否定語は「食べる」という動きの反対の「食べない」になる。一方、形容詞「おもしろい」の場合は、あるものが「おもしろい」という時間的に一定に保たれた状態を描写するための言葉であり、その反対形は対義語を使って「つまらない」という状態を描写するほうが自然になる（山口 2012）。つまり、動詞の肯定・否定形は変化の相で「するのか」「しないのか」を表すものであり、形容詞は時間的にある一定に保たれている状態を描写するものであるので、

今ある状態を打ち消してその状態ではないと言うよりは、その状態と違った反対の状態を持つ対義語が使いやすくなる。

4. イ形容詞の対義語を使った新しい指導方法

4.1 コミュニケーションを目的とする形容詞の指導方法

日本語初級教科書での、イ形容詞述語文の否定形導入ではその活用形式の定着に重点を置いた練習問題が多い。例えば、次の練習問題はイ形容詞述語文の否定形を作るために、その活用形「～くないです（敬体）」を使って文を完成させるものである。

例：日本の 食べ物は 安いですか。

・・・いいえ、(安くないです)。とても 高いです。

1) あなたの パソコンは 新しいですか。

・・・いいえ、()。古いです。

2) イギリスは 今 暑いですか。

・・・いいえ、あまり ()

(略)

(『みんなの日本語 初級 I 第 2 版本冊, 73』)

また、次にあるのは同じように否定形活用の練習だが、形容詞否定文の活用を述べた後に、その対義語を使った文を付け加えるものである。

例：この大学は古いですか。(新しい)

→ いいえ、この大学は古くありません。新しいです。

1) そのビルは高いですか。(低い)

2) この本はおもしろいですか。(つまらない)

3) この肉はおいしいですか。(まずい)

(略)

(『ようこそ An Invitation to Contemporary Japanese 』, 132)

このような発話練習では、イ形容詞の否定形活用を教えるという文型の定着だけが先行し、不自然な会話ができてあがってしまう（徳井 2012）。学習者自身が自分の言いたいことをことばにして発話する練習ではないからである。つまり、学習者が打消しの意味を持つ文を発話したいという状況設定がなされていない。発話者がだれで、だれに向かって、どのような時に、何のために形容詞の打消しの意味が伝えられるのかが設定されていない。学習者にとって、何のために形容詞述語文の打消しの意味を伝えるのかわからない無目的な文法教育になっている（野田 2009）。

4.2 考えたことを発話させるための指導方法

無目的な文法教育から、目的を持ったコミュニケーションをとるための会話練習にするには学習者に自分の言いたいことを考えさせることが大切になってくる（細川、2004）。文法形式を定着させることを目的とし、ただその活用の形を発話するモノログではなく、他者との関係を作るダイアログとして言いたいことをことばにする必要がある。イ形容詞の否定形活用を機械的に作成するという形式重視の練習では、その文法形式の完成にばかりに気を遣い、発話者が実際に言いたいことを表現することができない。口頭でのすばやい応答が求められ、言いたいことを見出す前に、否定形の活用を完成しなければいけないからである。否定形の活用が適切に使われ、打消しの意味が述べられたとしても、それは発話者の言いたいことを表現した発話ではない。学習者が発話者として自分の考えをことばにしてはじめて相手とのコミュニケーションが可能になる。

学習者に自分の言いたいことを考えさせ、それをことばにしてコミュニケーションが図れるように、教師が学習者を誘導する発話環境を設定する必要がある。例えば、次の練習では、イ形容詞の否定形活用を機械的に答えさせるものではなく、会話の自然な流れの中で打消しの意味を伝えたいと思わせる誘導がなされている。言い換えれば、否定形活用の作成を強要する精神作用を省き、発話者の言いたいことを見出させ、それを表現する練習になっている。発話者が伝えたいことをすばやく実現し、相手とのコミュニケーションをとることがこの発話練習の目的である。

例、*situation - foreign students A and B meet at a school cafeteria. One afternoon, when both of them finished their tests, they talk about what they can do together:*

A: 今日のごご 何を しますか。

B: → (スーパーに 行きます)。

A: (スーパー) は (遠い)ですか。

B: → いいえ、(ちかい) です。

A: (かいもの) は (むずかしい)ですか。

B: → いいえ、(かんたん) です。

A: じゃあ、いっしょに (行きます)。

他の誘導例:

1. *go to Sukiya for lunch: far, expensive, delicious, etc?*
2. *go to Book-Off to buy comics: near, cheap, fun, etc?*

この練習では、発話者が自分の言いたいことをことばにするための誘導がなされている。まず、会話の主目的は二人の発話者がいっしょにできることを見つけることである。何かをいっしょにするために、あるアクティビティーを考えさせ、そのアクティビティーを遂行するために形容詞述語文を使って会話を展開する形になっている。上記の例では、「スーパーに行く」が採用されているが、あらかじめアクティビティーが指定されているのではなく、発話者が自由に考え、ことばにするよう誘導する。

次に、一度あるアクティビティーが話題になると、そのアクティビティーをいっしょに遂行するために、その状況・条件などを描写する形容詞述語文を使って質疑応答に従事させる形を取る。発話される形容詞述語文はあらかじめ指定されたものを使うのではなく、発話者自身に自由に考えさせたものを伝えさせる。その際、質問された形容詞述語文に対して打消しの意味を伝えたい時は、否定形の活用を強要することはしない。この形容詞述語文による質疑応答は「何かアクティビティーを

いっしょにする」という会話の主目的に収斂されて展開する。つまり、形容詞述語文は「いっしょにできるかどうか」を判断するために、発話者に考えさせるものごとばして会話を実現したものになる。

「いっしょにできるかどうか」の判断のための目的を持つ会話練習になるわけだから、形容詞否定文の活用を使って打消しの文が正しく作られているかどうかをみる形式重視の無目的な文法指導ではなくなる。文法はあくまでも言いたいことをことばにして、相手に伝えるための手段だからである（白川 2010）。

5. まとめ

文型積み上げ式を採用する日本語初級文法では「すべて順序良く教えなければいけない」という教師側の視点から教授法が確立されていて、学習者自身に自分の「言いたいこと」を見出させる学習者主体の文法教育ではない。コミュニケーション能力を養うためには、教師側のこだわりを取り除き、学習者に考え、それをことばにするよう「教える方法」だけではなく「教える内容」も変える必要がある。例えば、イ形容詞の否定形活用があまり使用されないならば、その活用形式を無目的に教えるよりは、打消しの意味をすばやく伝えてコミュニケーションを図るために対義語を使う指導の代替案を実行するほうがいい。複雑な否定形の活用形式を機械的に完成するための精神作用の過程を省き、学習者に言いたいことを自由に見出させ、それをことばにするほうが重要だからである。学習者の考えたことをことばにする過程を踏んでいないために、導入された文法の定着と運用が容易に実現しないのである。学習者が言いたいことをことばにするというコミュニケーションの基本理念に基づき、学習者の視点に立った初級日本語教育の文法シラバスの再構築が必要になる（小林 2010）。新しい文法シラバスでは、教える方法を変えるのではなく、教える内容を変えることになる。教師の役割は、学習者が文法を使って考えていることをことばにするための誘導をすることである。

注

(1) 現代日本語研究会（編）（1999）『女性のことば・職場編』ひつじ書房；現代日本語研究会（編）（2001）『男性のことば・職場編』ひつじ書房、小林 ミナ（2010）「コミュニケーションに役立つ日本語教育文法」野田尚史（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法』にて引用(p. 33)

(2) 中級日本語文法では、形容詞を使って、「ある状態になる」、「ある状態にする」という表現「～になる」「～にする」という文法形式が導入される。その際に、例えば、「大きい」という形容詞を使って「大きくなる」「大きくする」の作り方を学習する必要がある。この場合、形容詞否定形の「～くない」という文法形式からその文型を作るということではなく、「～くなる」「～くする」として、否定の意味を持たない新しい形式として教えられる。否定形を用いて「～くなる」「～くする」という説明では不自然なものになる。

参考文献

小林典子（2005） 「日本語学習者の誤用に見られる規則性」『日本語学』24(9), pp. 20-27

小林ルミ（2010）「コミュニケーションに役立つ日本語教育文法」野田尚志（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版 pp. 187-205

迫田久美子（2012）「非母語話者の日本語コミュニケーションの工夫」野田尚志（編）『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版 pp.105-124

品田潤子（2012）「日本語コミュニケーション教育 コミュニケーションのための日本語教育の方法」野田尚志（編）『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版 pp.145-166

嶋田和子（2012）「日本語教師に求められるコミュニケーション教育能力」野田尚志（編）『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版 pp.187-205

白川博之（2010）「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」野田尚志（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版 pp. 43-62

スリーエーネットワーク編著（2012）『みんなの日本語 初級Ⅰ第2版本冊』スリーエーネットワーク

- 徳井厚子 (2012) 「日本語のコミュニケーション教育を阻む要因」野田尚志 (編) 『日本語教育のためのコミュニケーション研究』 くろしお出版 pp.167-185
- 野田尚史 (2009) 「言語の教育からコミュニケーションの教育へ—非母語話者に対する日本語教育を例にして」 『社会言語学』 12(1) pp.67-79.
- 細川英雄 (2004) 「クラス活動の理念と設計」細川英雄 (編) 『考えるための日本語』 明石書店 pp.8-43
- 山口明穂 (2005) 『日本語の論理 言葉に現れる思想』 大修館書店.
- Yasu-Hiko Tohsaku (2006) 『ようこそ An Invitation to Contemporary Japanese』 The McGraw-Hill

(ckomura9@kansai-gaidai.ac.jp)

(shikaura@kansai-gaidai.ac.jp)

Appendix

調査結果

SPJ2 の学生

	Not interesting/ not fun	Be not fond of / not like	Not busy
学生 1	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
2	つまらない・おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
3	おもしろくない・つまらない	すきじゃない	ひま・いそがしくない
4	おもしろくない	<u>すきくない</u> ・すきじゃない	いそがしくない
5	おもしろくない	だいきらい・すきじゃない	いそがしくない
6	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
7	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
8	おもしろくなくて	きらい・すきじゃない	ひま・いそがしくない
9	つまらない・おもしろくない	きらい・すきじゃない	いそがしくない
10	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
11	たのしくない	きらい・すきじゃない	いそがしくない
12	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
13	おもしろくないです	すきじゃない	いそがしくない
14	つまらない	すきじゃない	いそがしくない
15	<u>たのしみじゃない</u>	すきじゃない・きらい	いそがしくない・ひま
16	<u>無回答</u>	きらい・すきじゃない	<u>へた</u> ・ひま・いそがしくない
17	おもしろくない	きらい・すきじゃない	いそがしくない
18	つまらない・おもしろくない	きらい・すきじゃない	ひま・いそがしくない
19	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
20	<u>たのしいじゃない</u>	きらい・だいきらい・すきじゃない	いそがしくない
21	おもしろくない	ことがすきじゃない	ひま・いそがしくない
22	おもしろくない	きらい・すきじゃない	ひま・いそがしくない
23	おもしろくない	すきじゃない	ひま・いそがしくない

24	つまらない	すきじゃない	いそがしくない
25	おもしろくない	きれい	いそがしくない
26	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
27	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
28	おもしろくない	きれい・すきじゃない	ひま・ <u>いそがしいじやない</u>
29	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
30	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
31	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
32	おもしろくない	すきじゃない	<u>いそぐ</u> ・ひま
33	おもしろくない	すきじゃない・きれい	いそがしくない
34	おもしろくない	すきじゃない・きれい	ひま・いそがしくない
35	おもしろくない	すきじゃない・きれい	いそがしくない
36	つまらない、おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない

SPJ3 の学生

	Not interesting/ not fun	Be not fond of / not like	Not busy
学生 1	おもしろくない	きれい	ひま
2	つまらない	きれい	ひま
3	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
4	つまらない・たのしくない	きれい	ひま
5	おもしろくない	きれい	ひま
6	おもしろくない	きれい	いそがしくない
7	おもしろくない	きれい・ <u>すきなない</u>	ひま
8	おもしろくない	すきじゃない	いそがしくない
9	おもしろくない	だいきらい	いそがしくありません
10	おもしろくなくて	すきじゃないみたい	いそがしいみたい
11	つまらない	きれい	いそがしくない
12	おもしろくない	きれい	いそがしくない
13	おもしろくない	きれい	ひま

14	<u>おもしろ</u> ・・・？	きらい	ひま
15	おもしろくない	だいきらい	いそがしくない
16	<u>おもしろくない</u>	きらない	いそがしくない
17	おもしろくないと思う	<u>すきだない</u> と思う	いそがしくないと思う
18	おもしろくない	きらい・ <u>すきくない</u>	<u>いそがしく</u> ・・・？
19	つまらない	きらい	いそがしくない
20	たのしくない	すきじゃない	いそがしくない
21	つまらない	だいきらい	ひま
22	おもしろくないと思います	だいきらいだと思 います	<u>へた</u> と思います・ひま
23	おもしろくない	あまりすきじゃない	いそがしくない
24	おもしろくない	だいきらい	ひま